

6月10日(金)～11日(日)

自然科学部実験観察会に参加しました。

6月10日(金)～11日(土)の2日間に渡り、島根県高文連自然科学部門実験観察会が三瓶自然館サヒメルおよび国立三瓶清張年交流の家で行われました。本校自然科学部員のうち、2年生2名、1年生3名の5名が参加しました。当日は、県下各校から約80名の自然科学系の部活動の部員が集まり研修や交流を深めました。初日は、6つの班に分かれて、三瓶自然館サヒメルの学芸員の方々から研修を受けました。骨を使った相同器官の研修班では、生体から作成した骨格標本を用いた研修でした。夕食後の研修では、島根大学の大槻先生から、「科学研究の進め方：身近な減少の物理を例として」と題した講義がありました。先生の研究を題材として科学研究の進め方に関する考え方をわかりやすく説明いただきました。21:00に講義が終わった後も生徒たちは先生のところに集まり長い時間質問をしていました。11日(土)は、朝食後三瓶自然館サヒメルに移動して天体観測施設の説明を受けました。太陽観測に挑戦しましたがあいにくの曇天で黒点観測には至りませんでした。秋に行われる研究発表会に向けて充実した2日間になりました。



会長の大東高校今井校長先生から研修目的の講話がありました。



骨格の学習班が骨を並べていました。



太陽の黒点観測をしています。



セミの幼虫の抜け殻から分類に挑戦しています。



しゅう曲と断層をつくる実験中



朝のつどいでラジオ体操交流も深めました。



望遠鏡についての説明を聞いた後、屋根を開けてもらい太陽を待ちました。



充実の研修を終えて三瓶山を背景に撮影